

平成 27 年度 『伊勢志摩定住自立圏共生学』現地学修（南伊勢町）実施報告書

学修先	度会郡南伊勢町神津佐区
日程	平成 27 年 12 月 13 日(日) 11:15~16:00
目的	南伊勢町神津佐地区の自然史を学び, 自然災害と防災の実情を学ぶ
移動方法	レンタカー(ワンボックスカー) 1台/ニッポンレンタカー近鉄宇治山田営業所
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学生 4 名 (文学部 3 年) 男子 1 名、女子 1 名 (文学部 2 年) 男子 1 名 (現代日本社会学部 3 年) 男子 1 名</li> <li>* 教職員 3 名 (板井准教授、近藤准教授、池山助教)</li> <li>* 南伊勢町役場職員 3 名 (防災課 2 名、福祉課 1 名)</li> <li>* 神津佐地区住民 約 50 名</li> </ul>
対応者	神津佐区区長
行程	<ul style="list-style-type: none"> <li>11:15 大学本部前集合</li> <li>11:30 大学発</li> <li>12:30 南伊勢町神津佐地区公民館着</li> <li>13:00 「神津佐地区の自然環境の生い立ちと防災」についての講演会(神津佐地区長および近藤担当)</li> <li>14:15 神津佐地区防災倉庫見学と野外での自然観察・意見交換</li> <li>15:15 旧神津佐啓発小学校前にてドローンの自然・防災に関する利用解説と実演・まとめ</li> <li>16:00 南伊勢町神津佐地区公民館発</li> <li>17:00 大学着、解散</li> </ul>
配布された資料	特になし
その他	・まとめ後、アンケート実施

## 【学修内容】

本現地学修では、伊勢志摩地域と開催地である南伊勢町神津佐地区の自然環境の生い立ちについて自然地理学・第四紀地質学的に理解し、1) 神津佐地区の自然環境の価値の再認識、2) 生じうる自然災害の特性、3) 地域主体の防災対策について理解を深めることを目的とした。特に講演会（座学）では、津波以外の地震災害や、斜面災害、河川災害の可能性やその影響についても紹介した。引き続き行われた野外での防災設備（防災倉庫）の見学では、その移動途上での自然環境の解説や過去の津波到達点、防災倉庫から俯瞰される自然景観について解説を行うとともに、神津佐地区の防災倉庫の特殊性・有効性について解説した。あわせて、防災倉庫前では地域住民と過去の津波の記憶や現在の防災意識などについて意見交換を行った。本学修の最後には、旧神津佐啓発小学校グラウンドにおいて、ドローンを利用した空からの地域把握の有効性について解説し、実際に飛行と空撮のデモンストレーションを行った。



写真 1 神津佐地区公民館での講演の様子



写真 2 津波到達地点を示す石碑前での解説



写真 3 防災倉庫前での解説と意見交換



写真 4 ドローンのデモンストレーション

# 『伊勢志摩定住自立圏共生学』現地学修 参加学生アンケート集計結果

(南伊勢町：平成27年12月13日 11：15～16：00実施)

問	アンケート項目	内容	大学の授業で	案内チラシ・ポスター	就職担当を通じての案内メール	知人から	その他	合計
1	今回の現地学修は何を通じて知りましたか。(複数回答可)	回答数	4	1	0	0	0	5
		構成比	80%	20%	0%	0%	0%	100%
2	今回の現地学修に参加した理由は何ですか。(複数回答可)	回答数	0	2	0	3		5
		構成比	0%	40%	0%	60%		100%
3	今回の現地学修に参加したことによって、新たな気づきや発見が得られましたか。	回答数	2	2	0	0	0	4
		構成比	50%	50%	0%	0%	0%	100%
4	今回の現地学修に参加したことによって、圏域の定住自立に関する知見が得られましたか。	回答数	3	0	1	0	0	4
		構成比	75%	0%	25%	0%	0%	100%
5	学修内容は適切に設定されていたと思いますか。	回答数	4	0	0	0	0	4
		構成比	100%	0%	0%	0%	0%	100%
6	今回の現地学修に参加して、圏域の定住自立について新たな興味・関心が生まれましたか。	回答数	3	1	0	0	0	4
		構成比	75%	25%	0%	0%	0%	100%

問3について。得られた気づきや発見とは、具体的にどのようなものですか。

- ・ 神津佐地区についての地形について詳しくわかったことがよかったです。
- ・ 地域防災のための施設にイルミネーションを飾るなど、親しみ及び興味の与え方にいろいろとあるということ。
- ・ 地域防災に対する住民の防災意識がこんなにも高い地域があるということ。
- ・ 南伊勢町神津佐地区は防災の設備が揃っており注目されているが、若者が少ないのでこの設備を伝えておくことが大切になる。
- ・ 避難所までの道のりをもっと整備することが大切だと感じました。
- ・ 神津佐地区の地域が山が多く、つままれたようになっているのはリアス式の地域だからということ。つまり、フィリピンプレートと太平洋プレートの押し合いによってできたものである。
- ・ 避難対策として、普段から避難所へ行ったりして知っておくことが大切。

問6について。新たな興味・関心とは、具体的にどのようなものですか。

- ・ 防災とは、次の世代、次の次の世代に「意識」といざと言うときの設備の「活用」を伝えるためである。そのためには地域の自然環境を知ること、たのしみむこと、利用することが重要であるということが新たな発見でした。
- ・ 今回の経験を己の地元で生かす術
- ・ 避難時の高齢者支援
- ・ 神津佐の地形について詳しく知れてよかったです。また、倉庫の中には誰のものかわかりやすく分けてあってすごいと感じました。
- ・ 私は津に住んでいるのですが、私の近所の高茶屋及び津興の辺りにも津波が来ると言われているので、津に関してもリアス式じゃないが、関係はあるのかということ。
- ・ ドローンを使ってのより効果的な避難

その他、今回の現地学修についてのご意見・ご要望や今後、定住自立に関することで現地学修や地域インターンシップで取り上げてほしいテーマがありましたら記載してください。

- ・ ほかの地域、津や尾鷲についても機会を設けてほしい。
- ・ 地域の神社と人々とのかかわりということで祭りを見学し、話し合いたい。
- ・ ドローンを飛ばした学修がしてみたい。